

お客様紹介

# 株式会社FLOSFIA 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄  
Hideo Mino

株式会社FLOSFIA様は、2011年に設立された京都大学発のベンチャー企業です。京都大学桂キャンパスに隣接して拠点を構え、同大学で開発された最先端材料のコランダム構造酸化ガリウムを搭載したパワーデバイス(半導体素子)及び成膜製品の設計開発及び製造を手掛けられています。社名のFLOSFIAは、流れる(flow)と智慧・叡智(sophia)の造語で、様々な智慧や叡智が流れ込み集まる会社、そしてそれをさらに磨きあげて社会に流し戻すことで、人類の進歩に貢献する会社でありたいという意味を込めて名付けられたそうです。

2019年にISO 9001、ISO 14001を認証取得され、統合システムとして運用されています。業務に沿った仕組みを作られ、経営層の方々を中心に熱心に取り組まれていることで、前回の審査では、「認証4年目の企業とは思えないほど、業務やISO運用プロセスがシステム化され充実している」との審査員のコメントがありました。



GaO® ダイオード



本社社屋 (京都市西京区)

水から半導体を作るミストドライ®法やミストドライ®法で作成されるGaO®(コランダム構造酸化ガリウム)のパワーデバイス応用により、電源・車載・動力領域でのイノベーションの実現を達成すべく活動され、同社の開発製品そのものが環境に大いに寄与するものです。電気自動車や家電、工場の生産設備など身の回りにある様々な電気機器で必要とされる半導体デバイスを超低損失・低コストで開発されている同社は、様々な賞を受賞され、経済産業省が推進する「J-Startup」の認定企業にもなっています。新規パワーデバイスの事業化にとどまらず、パワーデバイスを通じた同社の名付ける究極の省エネ革命「半導体エコロジー®」にもチャレンジされているFLOSFIA様の今後のさらなるご活躍、国内外での展開が期待されます。



同社代表取締役社長 人羅 俊美 氏

<https://flosfia.com/>

連載  
よみもの

## 審査員の心理

第38回 (環境編)

### 「緊急事態への準備及び対応(1)」

環境主任審査員 大村 敏夫  
Toshio Omura

ISO 14001:2004とISO 9001:2008との対比表(ISO 9001:2008の附属書A“表A.2”)では、“4.4.7 緊急事態への準備対応”に対応するISO 9001要求事項は“8.3 不適合製品の管理”となりました。ISO 9001が要求しているのは、検査などで発見された不適合製品を適切に処置して適切な状態とする under controlでの管理ですが、ISO 14001(2015年版では8.2項)の緊急事態とは、制御不能(out of control)となったことを仮定した対応で、被害を最小限にとどめたとしても、企業の社会的責任は免れないことがあり得るという違いがあります。

環境側面の特定の際、“緊急時”として挙げられた環境側面については、緊急事態に至らないように管理するのは当然ですが、それでも、発生したことを想定して、有害な環境影響を防止又

は緩和するための処置を計画することが求められています。まずは、緊急時の環境側面が適切に特定されていることが必要ですが、想定できる範囲に限界があるでしょう。事故が発生した場合、往々にして想定外の事態であったと弁明されることがありますが、想定外であることで企業の社会的責任を免れることはできません。工場などでは、取り扱っている原材料などの流出、環境関連設備が制御不能となった場合など、緊急事態として想定できるかもしれません。実際に環境事故を経験した組織にとっては、その事態は緊急事態から外せないでしょう。悩ましいのは、環境負荷の小さい組織、例えばオフィス業務しか行われていない組織では、緊急事態の想定は難しいかもしれません。そのような組織には、外部の“影響を及ぼすことができる環境側面”での環境事故が想定できないか、取り扱っている製品等のサプライチェーンに関わる環境影響が伴うトラブルに対して、何かしらの働きかけができないか、などを想定すると何か出てくるかも知れません。

審査では、その組織の実態から考えられる緊急事態について、想定参考になるような情報提供をしたいと思っています。